

令和7年度第1回四日市市総合教育会議

令和7年7月29日

10時30分 開会

1 開会

○川口政策推進部長 おそろいになられましたので、令和7年度の第1回四日市市総合教育会議を始めさせていただきたいと思います。

本日司会を務めさせていただく、政策推進部長の川口と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本年度の第1回目ということで、よろしくお願いします。

それでは、本日の議題ということでございますが、事項書で、四日市市教育大綱の改訂に向けてということでお願いしたいと思っております。全体で12時をめどとさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

なお、本日、本会議は公開で行うということでございます。傍聴の方もしくはメディアの方が入る可能性がありますので、ご了承ください。

それでは、事項書に従いまして会議を進めさせていただきます。

本日の議題、先ほども申し上げましたが、四日市市教育大綱の改訂に向けてでございます。

四日市市教育大綱は平成27年11月に策定してございまして、令和3年3月に改訂を行っています。現在の教育大綱の対象期間といたしましては、令和3年度から本年度、令和7年度までの5年間となっています。そのため、今年度は教育大綱を改訂する必要がございまして、改訂に当たっては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づきまして、あらかじめ総合教育会議において協議をいただくことになっておるところでございます。

それでは、事務局から資料の説明をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○矢澤政策推進課長 おはようございます。政策推進課の矢澤と申します。

お手元のA3の資料、「次期四日市市教育大綱の改訂に向けて」という資料でございます。

左側半分につきましては、地方教育行政法改正に伴いまして、首長、市長でございますが、教育に関する大綱を策定することとなったと。先ほど部長からもありましたように、今年度中の改訂を行っていきたいというところでございます。

大綱の位置づけです。

教育振興基本計画との整理、下に表で示しておりますので、またご覧ください。

右側でございます。次期大綱の改訂に向けた検討につきましては、昨年度、10年間の総合計画の中間見直しの中で、後半5年間の進め方を議論させていただきました。大きな教育の方向性であったり政策に関しまして大きな変更はなかったものの、この中間見直しにおきましては、新規に重点的横断戦略プランとなりました施策であったり、拡充した施策、また、教育を取り巻く社会の変化、課題といったことを総合計画の中間見直しで議論してまいりました。

こういったことも踏まえまして、現大綱では、この後説明がありますが、振り返りを踏まえましてこの総合教育会議の場で議論いただきまして、次期大綱の検討を進めていきたいというところでございます。

(1)で、総合計画の中間見直しで、新たに重点的横断戦略プラン、拡充した施策を列記しております。

例えば、部活動の地域展開であったり、校内ふれあい教室の拡充、こどもの居場所づくりですね。今も暑いですが、体育館の空調設置による熱中症対策、民間のプール活用による水泳指導、不登校等の課題がある中でのフリースクール等との連携といったところを新たな事業として追加しております。

(2)では、社会状況の変化や課題を列記しています。

これは国の第4期教育振興基本計画からではございますが、総合計画の中間見直しでもこういった点を踏まえて議論したところでございます。大きくは、新型コロナウイルス感染症拡大から5類に移行していった。VUCAといった予測困難な時代でどう対応していくかというところです。これは何年も前からですが、少子高齢化の中での動きであったり、デジタル・グリーン、グローバル化の進展ですね。一方で、ウェルビーイングといった精神的豊かさを重視していくといった考えもございます。

また、②では、コロナも経て、交流や体験活動が若干停滞したというところであったり、いじめの問題、重大事案が増加している。働きがいと教師不足といった課題も出てきております。こういった社会の状況の変化、課題も踏まえたご議論を賜ればというところでございます。

3番目が、今後のスケジュールでございます。

今日7月29日、第1回の総合教育会議でございます。あと2回、11月、1月とこの総合教育会議を開催させていただいて議論いただく中で、今年度中、3月でございますが、次期教育大綱改訂・公表といった流れでいきたいと考えております。

次のページに、参考で、市の総合計画、教育大綱、教育ビジョン等の関連性と大まかなスケジュールを記載させていただいておりますので、ご覧ください。

右側には、現大綱の体系というところで、3番で、四日市市が目指す教育というところでそれぞれ記載させていただいております。

その中で、5つの理念というところで、確かな学力を修得し、未来を創る能力の養成等、以下5点記載しておりますので、またご覧いただければと思います。

簡単ですが、説明は以上でございます。

○稲毛教育監 失礼いたします。教育監の稲毛でございます。

現四日市市教育大綱の振り返りについて少し説明させていただきます。お手元の資料、ちょっと大きなものになりましたけれども、見やすいかと思っておりますので、大きな資料をご覧ください。

まず、表紙をめくっていただきまして、3ページをご覧ください。

先ほど説明がございましたとおり、この大綱につきましては、令和3年度にスタートしたものでございます。当時はちょうどコロナ禍の中で、これからのこどもたちの姿を見据えてというところでしたので、その当時から徐々にコロナが収まり、学校教育含めこどもたちの世界が広がってきた中で、この5年間、こどもたちの姿がどのように変わってきたのかということを少し振り返りました。

3ページにつきましては、大綱の5つの理念と現行の第4次学校教育ビジョンの5つの基本目標、施策の関連を示してございます。これらも含めまして、5年間、こどもたちの学力・学習状況調査ですとか、体力・運動能力の調査とかいった数値も含めて振り返ってきたいなと思います。

資料は4ページをご覧ください。理念の1番、確かな学力を修得し、未来を創る力の養成ということです。

理念の下の四角囲いにつきましては、大綱の内容を記載してございます。そして、その下に振り返りで、主な取組と成果・課題など、そして、その根拠となる参考指標ということで、幾つかの調査の結果を5ページに記載してございますので、両方合わせてご覧ください。

この学力の部分でございますけれども、市として四日市市新教育プログラムを策定いたしまして、種々の施策に取り組んでまいりました。そして確かな学力の定着を図ってまいりました。

成果はいろいろございますが、特に、5ページの参考指標の下2つをご覧くださいますと、

四日市市が大切にしております、主体的に自ら学ぶこどもということで、令和元年度からこの5年間で数値が随分上昇してございます。授業改善を進めることによって主体的に学ぶこどもたちが増えてきたということがこれからも見てとれる、そんな成果がございます。

続きまして、6ページ、7ページをご覧ください。理念の2つ目、生涯にわたり健康を保持し、運動に親しむ態度の育成ということで、運動好きのこどもたちを育てるために様々な授業改善、あるいは環境づくりに努めてまいりました。

また、学校三師と連携した学校保健会の開催、そして、途中で始めました中学校給食も含めまして、食育の推進に力を入れてまいりました。

7ページの参考指標の中で、運動好きについては、小学校の男女、中学校の男子で増加傾向にございます。体力については横ばいの状況がございます。コロナ禍の中でも、運動が好きだなというこどもたちがコロナ以降に少しずつ増えてきたことは喜ばしいことかなと思います。

また、食育の部分に関しましては、中学校給食が始まった影響もございますが、食育への関心は中学校で非常に上昇傾向があるのも成果の一つとして捉えることができます。

続きまして、8ページ、9ページをご覧ください。理念の3番、豊かな人間性を育み、夢と志の実現に向け学び続ける態度の涵養ということです。

こどもたちが他者との関わりを通して自分自身の考えを深め、人間性を育むことができるように、キャリア教育の充実、人権教育、考え・議論する道徳教育の推進などに取り組んでまいりました。

9ページの指標の中では、「将来の夢や目標を持っている」と回答したこどもの割合は、少しずつではありますがありますが、増加しているように感じます。また、「自分には、よいところがある」と肯定的に回答しているお子さんが非常に高い傾向が続いておりますし、コロナ禍以降、他者との対話や交流が増えてきたことも、こういった成果につながっているかなと感じます。

続きまして、10ページ、11ページをご覧ください。理念の4、家庭・地域等外部との連携・協働による学校マネジメントの充実。

これにつきましては、様々な教育課題への対応を充実させるとともに、地域とともにある学校づくりを推進してまいりました。学校と関係機関との連携、それから、誰一人取り残さない学びの保障に向けた種々の政策を展開できました。特に、この5年間で四日市版のコミュニティスクールの全校指定が完了できたということは、非常に大きな成果だったかなと

感じております。

続きまして、資料の12ページ、13ページをご覧ください。理念の5つ目、四日市ならではの教育の推進。

これは、四日市市の地域資源の活用、従来から続けてまいりました企業連携あるいは環境教育、ふるさとに誇りと愛着を持つ四日市のこどもを育てていこうというものでございます。このコロナ禍で地域との関係性が少し途切れておりましたが、コロナ禍以降、少しずつ地域との関わりも増える中、継続して指標を追えるものが少なかったんですけれども、中段の3番目あたり、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」というこどもの割合がどんどん増加しておりまして、このあたりは、コロナ禍以降、学校と地域と連携しながらこどもの活動場所を増やしてきた一つの大きな成果だと感じております。

ちょっとはしりましたけれども、このように教育大綱に示した5つの理念につきましてはある一定の成果が見られたことから、こういったところを大切にしながら次の大綱につなげていっていただければなと感じております。

説明は以上です。

○川口政策推進部長 ありがとうございます。

教育大綱改訂の基本的な考え方、そして現大綱の検証といたしまして、これまで取り組んできた政策、施策の振り返りということで説明がございました。

それでは、委員の皆様からご意見、ご質問をいただきたいと思いますのですが、まずは、教育大綱の改訂に向けた基本的な考え方につきましてご質問等ございましたら、お願いできますでしょうか。

伊藤委員、何かあれば。

○伊藤教育委員 質問というものもありますけど。

いわゆる今の教育大綱、それに教育委員会としては学校教育ビジョンを受けて進めてきておるんですけれども、これを進めるためには、本当に多くの施策を市として進めていただいたことに感謝しております。また、中間見直しを見せていただいた中で、新たに浮き彫りになってきた課題とか、その課題の解決に当たる施策によりよく対応していただいているということを感じました。これも本当にありがたいと思っております。

5年前に現行の教育大綱を策定して、進めていただいているわけですが、政策推進部が出していただいた資料にありますように、国の目指す方向というか、羅針盤と言われておりますけれども、教育基本計画を見ましても、多くの面で合致しておりまして、目標や教育

施策にしても共通しているところが多いなと思っています。

確かに教育を取り巻く社会の変化とか新たな流れの中で出てきた考え方はあります。例えばウェルビーイングとかいったことがありますけれども、基本的な考え方の基礎は同様に、世論であると感じていますので、今の現行のものを受け継いで今後5年間も考えていくということについては、提案されているとおりの正しい。さっき言いましたように、この中間見直し、総合計画の中間見直しのものをきちっと盛り込んでいくということを進めていくべきかなと。

ただ、そういったときに考えたのは、5つの理念が挙げられておるんですけれども、例えば子育ての支援といいますか、特に居場所づくりといったこととか、教育プラスいわゆる全学的、地域も社会も含めて進めていくことも計画という感じで進めていかれていますが、こういった考え方とかに象徴されるように、いわゆる今の教育大綱は学校教育、特に就学前から、小学校、中学校の教育を中心に、絞って構成されているところなんですけれども、このあたりをうまく盛り込んでいけるのかということを考えると、理念の中にどう入れ込むかという考え方でいくのか。何らかそのあたりを工夫していく中でこれを進めていくのかということあたりは検討していく必要があるのかなとは思いました。

ざくっと概略で言いますと、そのあたりを教育大綱の改訂に向けて感じているところです。

一つずつの振り返りについて、自分自身も進めてきた中で感じていることは、また少し話はさせていただきたいと思います。

○川口政策推進部長 ありがとうございます。

総合計画の中間見直しをさせていただいた中で、基本的な部分については、前回決めた形のものを引き継いでいくという中で、やはり教育に関しましてもいろいろ状況が変わってきているという部分で、伊藤委員におっしゃっていただいたように、そこらあたりのところは総合計画の見直しでもきちっとやってきたと考えてございます。

その辺のところを大綱にどうやって盛り込んでいくかという部分がというようなところですね。それは、今後作っていく中で検討もさせていただきながら、またご相談もさせていただきたいなと考えてございます。

ありがとうございます。

豊田委員、何かご意見等ございましたら。

○豊田教育委員 伊藤委員と同じですけれども、前回作られたときより、やっぱり社会の動

きが速い。特にコロナを契機にしてというところがあるかなと思いますので、四日市として大事にしたいコアのところ、教育あるいはこどもたちを育てる社会が育っていくという中では動かないコアがあるかなとは思いますが、それをどう展開していくか。大綱なので、少し大きい視野で言葉が作られていくかなと思いますけれども、そこを崩さないような形のもので。

やっぱりこどもって、小学校だけにいるとか中学校だけにいるというのではなくて、生まれてからずっと社会の中の一員として育っていくので、学校教育が中心に展開されても、やっぱり地域社会で生きていく、育てられていく。その中の一員というのが前回のところでも出ていますが、こういう今の社会情勢を考えたときにもう少しつながっていくようなことも大事なかなとは感じています。

ともすると、個のほうにだけ目が向いてしまって、周りを見ることが狭くなってしまったりとかというようなことのないようにということと、あとは、いわゆる自然環境に非常に影響されていくので、この先も、どういうふうに地球が動いていくのか分からないですけれども、それこそ体育館の空調とか、本当に素早い対応をしていただいているのはありがたいなと思いますけれども、こどもたちの体力を作っていくとか自然の中で学んでいくというのが環境に左右されていく部分もあるので、こういうあたりをどういうふうに見込んで育っていくのを考えていくのかなというのは、大綱とは話がずれるかも分からないですけれども、ずっといけば、全部ウェルビーイングにつながっていくことにはなると思います。

ただ、四日市は本当に空調設備のこととか校内ふれあいのこととかでも動きが速いところにちゃんとご支援いただいているので、ありがたいなと。コロナのときのタブレットもそうでしたけれども、その素早さが四日市がしてくださる強みの中で、1人1人にいい還元ができるようなもの。ちょっと漠とした言い方ですけれども、そこを大事に、地域とつながっていくことを大事に、地域もこどもに興味を持ってということを含めて大事にして。止められない環境の変化はあるかもしれないですけれども、市として、地域にあるものを大事にしながら進めていくというようなこともやっていくのも大事なかなと思いました。

以上です。

○川口政策推進部長 ありがとうございます。

市長、その辺のところ、自然環境とか、いろいろ難しい大きな議題をいただいた形で。空調なんかについてもご評価もいただいたというところですが。

○森市長 ちょっと部分的な話にはなるんですが、その時々時代の流れをいかに

大綱に反映していけるかというのは大事だと思います。

豊田委員もおっしゃったように、5年前、これを作ったときにはコロナ禍で、タブレットをいかに、どうやって配備して、オンライン授業を含めてそれを活用していくかというところが、一つの学校の設備投資といいますか、投資の中での大きなテーマでありました。今回は、コロナがクリアできて、タブレットも標準装備になって、学校への投資という意味では、今大きな課題が空調ですよ。これはしっかりとやっていかなければいけないことだと思います。

ここ最近、本当にいろいろな時代の変化があるなというのはすごく感じています。とりわけ、国がこども家庭庁を創設して、こどもまんなか社会という方針を打ち出して、我々もこどもまんなかの四日市を作っていこうというところなので、学校教育プラス、やっぱりそういったところの観点も非常に重要になってくるのかなとは思っています。

まだ続きがあるので、この辺でよろしいですか。

○川口政策推進部長 そうですね。

それぞれまた委員皆様からご意見あるかと思います。

○森市長 こどもまんなか社会というのはすごく重要なキーワードじゃないかなとは思っています。もちろん、それは学校も含まれますけれども、学校以外のところでこどもがクローズアップされていますので、どう入れていくのか。やっぱり学校生活がメインなので、そういうところをどう加味していくかというところだと思います。

○川口政策推進部長 ありがとうございます。

菅生委員お願いします。

○菅生教育委員 ありがとうございます。

四日市市の教育大綱、よく知らなくて、申し訳ございません。

四日市市としての教育大綱ですね。教育委員会としての教育大綱とかではなく、四日市市のという意味でいくと、幼稚園、小学校、中学校の学校教育というよりも、もう少し四日市市の市民全体に対する教育をどうしていくのかという観点で大綱を作っていただくというのが大事だろうなというのをちょっと感じておりました。

質問ではないですが、感じたことで申し訳ございません。

例えば生涯学習みたいなのところもあるでしょうし、こどもを育てていく大人としてとか、こどもまんなか社会という意味で、こどもを育てながら、こどもと一緒にこの四日市市というまちをどうやって作っていったらいいのかみたいなことを大人も一緒に学べるとか。社

会人でもすごく言われていますけれども、大人自身も学び直しといったところも含め、様々な観点から、教育委員会だけではなく、四日市市としての教育大綱と幅広く捉えていただくと、一市民として、私たちもやらなくちゃな、これみたいな。確かに教育は大事なみたいな形になりそうだなとちょっと思いました。

○川口政策推進部長 ありがとうございます。

四日市市教育大綱ということでございますので、教育委員会だけではなくて、市の施策として教育というものをどういう方向でやっていくのかという部分についての大きな方向性みたいなものを、今回改訂という形になってこようかと思えます。

その中で、実際のところ、市全体としましては、総合計画という中で政策体系を組んでございまして、その中で学校教育とか社会教育といった教育分野についても、それぞれ施策についてやっていく方向性なんかは昨年度中間見直しを行い、お示しさせていただいたところですけども、その中でこの教育大綱にその部分も含めてどうやって反映していこうかという部分で、今おっしゃっていただきましたような議論、学校教育以外の部分もどの程度こちらの教育大綱というのに盛り込んでいくのかというような部分については、私どもも少し検討はしていないといけないなと感じているところでございます。

ありがとうございます。

○森市長 確かに教育大綱というのは、どの範囲を対象にするのかというのは自治体ごとでそれぞれ考え方があって、違うものになります。

これまで四日市は学校教育を中心に教育大綱を作ってきましたけれども、先ほど菅生委員からあったように、いろいろ視点を広げながらやっていくというのも一つの方向です。

そうなってくると、ここにいる以外の部署との連携も必要になってくるので、どういう範囲で、どこまで掘り下げていくのかというのは非常に重要だと思います。ご意見いただいているので、いま一度しっかりと議論というか、そういうところも検討していければなとは思っています。

○菅生教育委員 ありがとうございます。

○川口政策推進部長 ありがとうございます。

堀委員、何かあれば。

○堀教育委員 読書活動の推進については触れられていないまま。

図書館をどこに入れるかと思うと、多分、2番の生涯にわたり健康保持するためには、体はもちろん、運動に親しむ態度が必要だけれども、心の充実も大事だということで、ここ

に入るのか、3番の豊かな人間性に関わる部分で入ってくるのかなと思うんですけれども、できればどちらかに、読書活動で人間性を育みながら心を深めて、生涯現役じゃないけれども、生涯学習の観点でも入れてもらえるといいんじゃないかなと思います。

学校教育ビジョンでいうと、基本目標の2には入っているんですけれども、大綱にはこれが反映されていないので、よければご検討ください。

○森市長 もちろんです。

図書館になってくると、学校の図書館もありますし、市全体の図書館もあります。そうなってくると、先ほどお話ししたように対象が広がってきて、生涯教育とか社会教育とかにも波及していくと思いますので。

○川口政策推進部長 ありがとうございます。

各委員から一通りご意見いただきましたが、委員のご意見をお伺いして、もし何かプラスでご発言があればと思いますが、いかがでしょうか。

ありがとうございました。

それでは、基本的な考え方の部分でご意見いただきましたので、続いて、教育大綱の振り返りの部分でご意見やご質問等ありましたらということで進めさせていただきたいと思います。

また順番どおり、伊藤委員からお願いします。

○伊藤教育委員 各理念の内容のことはあまり触れずに、さっきはお話ししたんですけれども。

一つずつどうこうというあれではなく、特に自分が気になっているところは、確かな学力を修得し、未来を創る力、1番の理念のところで。

ビジョンでも、いわゆる非認知能力の大切さというのを言っています。いわゆる新教育プログラムというものの内容を進めていく中で、学習の基盤となる力としてこの非認知能力を位置づけて実践していくことを通じて、いつも言いますように、言語能力であるとか情報活用能力であるとか問題解決能力が育成されていくということですが、非認知能力ということを考えて、それを意識することを位置づけることで、どう学習が変わっていくのかということについては、理屈といいますか理論だけではなくて、やっぱり現場でどういう実践が進められていくかをしっかり共通理解していかないと、まだまだその段階ではないのかなと思っています。この非認知能力の位置づけをきちっとしながら共通理解を進めることが大事かなということ。

教育現場のICT化というのがこの中で挙げられております。ICTにつきましては、先ほども市長も言われましたように、コロナをくぐって、いわゆるタブレットを活用していくということが始まった。そういう意味では、使う段階からいわゆる活用する段階に、ステージは上がってきているはずだと思うんです。

ICTの活用は、大きな可能性を感じたりとか効果があるということは少なからず感じられてきていると思います。ただ、一方で、ICT化によってこどもの思考力が育ちにくくなっているんじゃないかということも言われているところ、これも気になるところで。確かに、使うことにとらわれたりとか、活用の仕方面で適切でなかったりということがあって、こどもの育てたい力の育成が思うように進まなくなっているというところもしっかり見ていかなきゃならない。デメリットとなってしまうところも留意していかなければならないと思います。

コロナ禍のICTの導入から活用に向けて進む過程を、やっぱりここ5年間のことを振り返って、有効活用といった視点をさらに大切に、今後の5年間注力して進める必要があるなと思います。

授業改善というのは、幾つかの重要な進めていくこととして振り返りの中でも挙げられておりますけれども、新たな指標とかニーズが入ったとしても、土台となる考え方、いわゆる「不易」と言われるようなアナログの部分とか、そういう内容とか方法とICTである「流行」の活用を効果的に組み合わせていくことで、個別最適な学び、いわゆる今目指していく個々の充実が大きく進められるものではないのかなと思っていますので、内容的には書くことはそう変わらないと思うんですけれども、やはりどこに注目して進めていくかというところが感じられるようにしていくことも必要になってくるのではないかなと思います。

2番目の、生涯にわたり健康を保持し、運動に親しむ態度の育成ということで、これはいわゆる授業であるとか、この改善を目指して5分間運動とかいうことを、教育委員会としてはいろいろそういったものの資料を出し、研修会もし、進めてきた中で、徐々にそういったことが進んできているということを感じています。

もう一つ大事なのが、運動に親しむ環境づくりということがあって。一つとして、家庭への働きかけも強化して、運動の日常化を促進していくとしているんですけれども、ここは、これを読まれた人、または家庭も、地域の方も含めて、どんなイメージを持っておられるかが少し気になるところで。

環境づくりとしての課題が今どこにあって、その解決に向けてどう進めることが大切か

ということは、大綱にははっきりそこまで具体として示さなくても、家庭と連携するということは書かれているけれども、やはりもう少し何を進めていくことを四日市は考えているのか、こういう環境づくりをしていくことをイメージとして持っているので、そこを共通理解するような発信をしていく必要があるんじゃないかなと思いました。

4番の、家庭・地域等外部との連携・協働による学校マネジメントの充実というのは、先ほどもちょっと言われていますように、学校マネジメントの充実の範囲だけではもうなくなってきているのかなと。いわゆる地域づくりであり社会づくりでありまちづくりであるというところにも関わってくるんですけれども、ここで、振り返りの中でコミュニティスクールを核として進めていくことが挙げられています。総合計画の中間見直しにも、こどもの居場所づくりということが入ってきて、これを進める上で、こどもにとっての多様な学びの場の提供と居場所の確保ということはどうたわれておるわけなんですけれども、四日市市全体で取り組むこどもの居場所づくり、放課後の学習支援や体験活動などをコミュニティスクール運営協議会と連携して進めていくという表現になっています。

コミュニティスクールは、これまで、どちらかというと学校の活動を支援するということが多かったんですが、これが、参画によってともに進めるということになって、今度は学びの場の提供と居場所の確保ということも含めて、これをコミュニティスクールが核となって進めていくということになると、コミュニティスクールとしてはかなりのステージアップということになると思います。

どんな居場所づくりを目指して、どのような方法で実現可能にしていくのか、これは大きな課題で、大きな挑戦でもあるなと思っています。コミュニティスクールは各校によって、地域によっては違いが当然あるわけなんですけれども、このことを進めていくとなると、いわゆる以前から言われている地域・学校協働活動という活動が進まないと、これはなかなか難しい。こういった本部を置いてとか推進委員を置くということは、本市の場合、今はそういう形は取っていませんので、コミュニティスクールを核としながら、こういった活動をどう高めていくかということがこれからの大きな課題になると思っています。

ぜひ、そのあたり、構想をしっかり立てて発信していかないと、地域の方々も家庭の方も、どう協力したら、何を協力したらいいのかということとか、何を一緒に頑張っていけばいいのかという、そのあたりが見えやすいようにしていく必要があるかなと思います。

不登校のこどもたちへのことも、本当にいろいろ、ふれあい教室含めて力を入れていただいて整備していただきました。多様な学びの場の提供ということで、多様な学校だとかいっ

たことも話題には出てきておりますけれども、四日市として、本当にこどもの立場に立って学べる、自分が学べる場をどう提供してもらっているか、いわゆる学びの場があるかということを、本当にどんな整備をすることでそれがかなえられるかということを改めて考えていく必要があるなということを、今の段階では思っています。

以上、いろいろにわたって話を出させてもらいましたが、そんなところを思っているところでございます。

○川口政策推進部長 ありがとうございます。

5点ほど、大きなところでお話があったのかなと思いますが、現状答えられるところは、事務局側から回答することは可能ですか。

まとめてどうですか。例えばICTの現状がどうか、運動の環境づくりの課題とかコミュニティスクールのお話など、いろいろご指摘をいただいていますので。

○坂下教育推進課長 教育推進課長の坂下です。

私から主に3点について触れさせていただこうと思います。学力とICTの関係、それから運動・体力、それからコミュニティスクールのあり方です。

まず、伊藤委員から、非認知能力あるいは授業改善について触れていただきました。

文科省では、一斉授業からの脱却ということで、いろいろな立場の子、例えば、全然本を読む習慣がない子たちも一定数いる、あるいは外国にルーツを持つ子たちも一定数いる。そういう子たちを一斉授業で教えていく時代ではないんだということは盛んに言っておるわけです。

その中で、ICTを使って個々に応じたいろいろな学習を仕組んでいくというのは、一つの方向として。

例えば、私どもの課としても、今年度は自己選択学習といいまして、モデル校も作りまして、こどもたちが自分たちでどんどん学びを進めていくような授業スタイル、つまり、一斉授業とは離れていくわけですが、そのような新しい授業スタイルを進めながら、そして、自分でしっかりと満足しながら進めていく非認知能力も合わせた授業スタイルを模索しておるといいですか、進めているところでして。何とか非認知能力も高まる、しかも学力も高まるというようなことをなるべくやっておるところです。

体力・運動については、特に運動の日常化ということで家庭への働きかけ。

これは、毎年私どもで体力・運動能力の調査・分析冊子を出しているんですが、その中にも、例えば家庭の中で腹筋運動とか、いわば体幹を鍛えるような運動もできますということ

を紹介しておったり、必ず家庭でもできるような運動の紹介ということは常に視点で置いておるわけです。あるいはストレッチについてもご紹介しております。そんなふうにして、家庭でもできる体力作りみたいなことは、さらに視点としてPRしていかないといけないと。

もう1点、コミュニティスクールに関してです。

これは、地域活動本部のようなものを持ちながら、つまり、四日市全体の動きとしてということも提案いただきました。これについては、またいろいろな各市町の動きも私ども調査しております。こういうことを提案いただきましたので、そういう調査をしながら、四日市にとって何が一番いいのか。

コミュニティスクール、確かに今まで学校を支援するという立場だったのが、今度はいろいろなものを創出していく活動にも参画していただけるのか。これについても少し検討を進めていきたいなと考えておるところです。

私からは以上です。

○川口政策推進部長 ありがとうございます。

現状等をご説明いただいたところでございます。

その辺のところをどうやって大綱にも表現していくのかという部分についてはまた検討を続けていきたいと考えてございます。

豊田委員、ご意見ございましたら。

○豊田教育委員 伊藤委員がおっしゃった中身になるかなと思うのと、もう一個。

例えば、こどもたちにこういうことあいうことというときに、菅生委員もおっしゃっていましたが、今学校で何が起こっているとか、どんなこどもが育っているというのはちょっと変な言い方ですけども、こどもたちがどういうふうな方向性で「夢と志を持ち、未来を創るよっかいちの子ども」というところに、地域が、コミュニティスクールの人がやっているからとか、学校の親御さんたちがやっているからとか、先生がやっているからじゃなくて、全部。それが多分こどもまんなかというところになるのかなとは思いますが、そういう市としての発信力というか、巻き込む力というか、そういうものが織り込まれてくると、市としてこどもを育てるとかということになるのかなとちょっと思ったりしています。

こどもたちを直接的にケアしていくのは学校の先生方になるんですけども、その先生方がやっぱり楽しいと思ってそのことに向き合えるように、我ら住民と一緒に考えていけ

たり協力できるところがというふうな。先生やでそれをしてもらって当たり前とすると先生方がすごく苦しくなってくるので、働き方で時間数を減らしましょうという、そこだけが走って行って手当てされるんじゃないくて、それが心底こどもを支えることになるというつながりのところというのが分かるようになっていくといいなと。

そうすると、学校がどう考えているのかとか、あるいは学校の管理職のなり手がなかなかいとかということもあったりしますけれども、学校の管理職として、学校経営の充実とか学校マネージというところがもっとうまくいくと、そういうこともつながっていくというようなところでの、どこに力を入れるかという、それがここにいるこどもにつながるというのが分かるような、それが大事だということが私たちに分かるような、そういうふうになるといいなと。

漠っとして、何ということではないですけれども、それがつながるということであったりとか、生涯教育とかにつながったりとか。例えば図書館のことでも、四日市の力って、図書館どうしようといったときに、いろいろな年代層の方がいろいろな思いがあって、いろいろな意見があって、ぱっと集まる力というのを四日市の地域が持っていたりするので、そういうのが今度はこどもを真ん中に置いたときに、そこに向かうような、強みを生かしたようなものになっていくと、教育もずっと上がっていくのかなというふうに思ったりしています。

○川口政策推進部長 ありがとうございます。

本当に地域との関わりですとか、おっしゃっていただいたみたいな、学校自体でも、先生側からすれば先生側の働き方というのもありますし、その中でどうやって教育というのは進めていくんだという。なかなか難しいテーマですけれども。

ありがとうございます。

教育長、その辺いかがでしょうか。

○廣瀬教育長 ちょっと極論的な話になるんですけれども、4番の項目で、学校マネジメントの充実というのは、前回、コロナ禍において非常に重要な課題であった。今までどおりではいけない、環境が激変してというところがあったので、こういったものが入ったのかなと思うんですけれども、これ自体は教育委員会の仕事なんだろうなと思っています。

これについては、今年の予算をいただいて、校長になる手前のところで研修を打たせてもらって。次世代リーダーズアカデミーという名の下に、三重郡の教頭と四日市市の教頭を集めて、その人たちがほぼ次の校長になるだろうというところで、学校マネジメントの考え方

を整理していただくような講座を持たせてもらっています。

そんなところで、学校をリードしていくマネージャーの育成というのは重要な課題と私も思っているので、それについては、教育委員会が責任を持って次世代の管理職を育てていくというのは必要だなと思ひまして、開いております。

ここの項に置き換えるとしたら、私としては、こどもまんなか社会の実現というところが今からのキーワードだろうなと。特にこどもについても、国が言う定義が、わけが分からないぐらい広くなって、自立するまでこどもだみたいな、そんな定義あるかと思ひながらも、そういった幅を広げているところもあると、こどもまんなか社会の実現というのは、生涯教育とか生涯学習とかいった視点でも重要になってくるのかな。

そうすると、全部絡んできて、1の学力とか未来を創る力というのは、身につけた知識や技能がすぐ陳腐化してしまうので、大人自体の学び直し、リカレント教育とかリスキリングとかいったことがうたわれると、大学構想とか新図書館構想とかがある中で、そこも重要な学びの場というのは市全体としてもつくっていかうとしているので、そういう視点もあつてのいいのかな。これは市長が教育大綱をどういうところにフォーカスするかによって変わってくるとは思ふんですけども、そういう視点も要るのかなとか。

生涯にわたり健康というところについても、人生 100 年時代というところであれば、こどもの時代にしっかりと体力とか基になる力をつけていくのは大事でしょうけれども、大人の姿にこどもは影響される。これはデータとして、女子の運動やスポーツに対する興味、関心の低さは親世代を見ているというデータも出て。

スポーツに親しむとか楽しむ環境というのは、今となつては女性もたくさん参加されていますけれども、私たちとかもうちょっと下の世代までの親世代は、家事や育児や介護に女性が縛られている中で、そういったスポーツに親しむというところにはなかなか入っていないんじゃないかというような説も一説あつて。そういうところから、女子の運動嫌いやスポーツに対する興味、関心が低いんじゃないかと言われているところもあると、豊かなスポーツライフというのは生涯にわたってというところなんだろうなとか。

夢と志とか豊かな人間性というのは、これも、こどもは大人の鏡なので、大人が夢を持っていなくて、少し上のお兄ちゃんが夢を持っていなかったりすると、こどもも持たないのかなとか、現実の難しいところばかりが見えてしまうというのもどうなのかなと思ふので、豊かな人間性とか、夢と志の実現というものも生涯学習の部分で大きいのかなと思ひますので、そんな視点で、今回の大綱については、どこにフォーカスするかで大きく変わって

くるとは思うんですけども、大きな人づくりという視点もあってもいいのかなと思っています。

それは、四日市が、まちが変わろうとしているので、大きな転換期なのかなと。中央通りの整備であるとか、半導体の大きな企業で、半導体関連製造品出荷額日本一なんていうまちってほかにはないわけです。コンビナートのカーボンニュートラル化とか、どんどん新しいことにトライしているといった、まちが大きく変わろうとしているときに、四日市に住む人たちにも大きな発信ができるような、教育の切り口で何か、もう一度みんなでこどもを真ん中に据えて教育を進めて、将来の町としてどう育成していくかということが発信できればなと思っています。

その前提として、大変ありがたいことに、前回、学校教育にフォーカスした大綱を作っていたことで、市長も、総合計画の中でも目指す都市像の一つに、「子育て、教育安心都市」を一番に挙げていただいている。常々、「教育するなら四日市」というワードを発信していただいていることで、本当にたくさんの予算をいただいて、学校教育に充実した施策の推進ができていますからこそ、今私がこうやって言えるのかなと思っていますので、大変ありがたいと思いますし、たくさん予算をいただいて、市として応援していただくことは、本当にこどもの姿で結果を示していかなくはいけないと常にプレッシャーを感じている次第ですので、そういった現状があつての、もう少し大きな、市民としての教育とか文化やこどもまんなかということに対する機運の醸成というところを発信できるといいのかなというのは個人的に大きく思うところです。

○川口政策推進部長 ありがとうございます。

教育長から全般にわたって触れていただきました。

続いて、菅生委員お願いします。

○菅生教育委員 ありがとうございます。

私、今、企業さんの組織がどうやったら成長するのか、成果が上がる組織になるのかみたいなことを、いろいろな企業様の支援をさせていただきながらしているわけですが、そういった観点から少しお話をさせていただきたいなと思っています。

企業の中で、要するに、こどもが育って社会人となりどんどん会社を大きくしていくためにいろいろ尽力いただける。そんな人材が増えていくわけですけども、そんなときに、昔、私が会社に入った頃なので、30年ほど前と比べると、やっぱりこどもたち、要するに学校を出て社会人になった子たちの、ちょっと分かりやすく言うと、レベルが下がっているとい

うのをかなり感じているんです。

じゃあ何が大事だったのかなと思ったときに、学力もちろん大事だし、よく言われる思考力、判断力、表現力とか非認知能力とかいったこともすごく大事で、だからこそ、教育のあり方とかやり方みたいなものが、この 10 年 15 年ぐらいで変わってきているんだろうなというのも感じているんですね。

そう思ったとき、社会に出て活躍できるこどもたちを育てていく、それがいわゆるこどもまんなか社会のちょっと先にあるのかなと思っていて。そう思うと、社会で活躍できるこどもって、結局、問題解決ができるということじゃないかなと思っているんです。四日市は、その社会人になっても通用する問題解決能力の育成というのに重点的に取り組んできていただいていて、多分徐々にそういったこどもたちが増えているんじゃないかなと思っていますが、改めて、今後という意味で、さらにそこに拍車をかけていただくといいのかななんてちょっと思っています。

というのも、今、私、別の県の教育委員会さんと探究学習の研究をさせていただいて。そこは県の教育委員会で、高校生向けの探究学習の研究です。それをやっていると、もっと早くからこういう学びがしたかったという高校生、前回だと、高校 1 年生がそんなことを言っていて。

問題解決の能力の育成って、高校生じゃなくても、中学生でも小学生でも幼稚園児でもできるなと思っているんです。本当に早い段階から問題解決って何なんだろうと、主体的に学ぶってどういうことかなとか、考えるってどういうことかなみたいなことを学校教育の中で学んでいけると、こどもたちが社会に出たときに、自分が活躍できる場がより増えてくるなとも思っています。

そういう意味で、どうしていったらいいのかなと思ったときに、四日市には、さっきの半導体の話もあって産業もあるし、自然もあるし、文化も伝統もいろいろ備わっている中で、そういった様々なことを生かしながらの探求をどう進めていくのか。今もやっていると思うんですけども、そこをもう少し掘り下げながら、それが学力を生かしながら探究学習もし、探究学習している中で、やっぱり学力というか学校の勉強って大事なんだとか、友達とこうやって関わるって大事なんだなといったことが学べ、またさらに勉強に力が入り、また問題解決力も高まるみたいな、そんなサイクルが回っていくと、本当に教育するには四日市いいよねっていう。そして、もちろんその先には四日市市の発展というところにもつながってくるなとちょっと考えています。

今やっっていることをさらに進めていただくという意味で、私がいろいろやっっている活動の中から少しお話しさせていただきました。

○川口政策推進部長 ありがとうございます。

最後、堀委員お願いします。

○堀教育委員 振り返りの大きな観点で、この5年何があったかなと思ったら、本当に大きく社会は動いて、5年前はマスクの時代だったし。そんな中でも見える部分、ハード面だけでも給食センターができたり幼児教育センターができたりふれあい教室が拡充したり、保護者や、もちろん子どもや家庭の助けになるような施策をたくさんしていただいて、たくさん進めてもらったなと思っています。体育館の空調ももちろんそうですし。大変なコロナ禍を経ても、やっぱり教育は止まることなくずっと進んできたなということを実感しています。

当時の小学生は今、中学生とか高校生になっていて、本当に大事な5年だったと思います。これからの5年は、今小学生の子たちが中学生になるまで、今のあの子どもたちだと想像しながら次の5年を考えるんです。

もっと言うと、さらに次の5年とか10年につながっていくような大綱になるといいなと思うので、これから生まれてくる子どもたちが、お父さんお母さんたちが四日市で教育を受けさせたいなと思ってもらえるような、夢と安心を感じられるような大綱になってほしいなと思います。

ざっくりとした内容ですけれども。

○川口政策推進部長 ありがとうございます。

各委員の皆様、本当にいろいろな観点からご意見いただいたと思います。

全般を通して、市長、何かコメントがあれば。

○森市長 冒頭からいろいろな意見があるように、やっぱり教育大綱の対象とする教育は、しっかり議論しないといけないと思います。やみくもに広げてもとは思いますが、実際に学校教育という定義がまたいろいろ変わってきていますので、例えばさっき教育長がお話しした産業って、四日市らしさの教育大綱を作るのであれば、そういう地域の背景的なところをやっぱり入れていったほうがいいと思いますし、これから四日市が変わっていくタイミングですので、大学がどこまで盛り込めるか分かりませんが、こういったところとか新図書館とかも、らしさはすごく出るなというのはあります。どこの大綱か分からないような大綱ではなくなるんじゃないかなとは思っています。

あと、教育の対象を広げるのかどうかといった議論がありましたけれども、生涯教育、社会教育をどこに入れるというのは議論はさせていただくとして、やっぱり学校以外での子どもたちの生活について広げていかなければならないと思っています。学校以外の施策がかなり増えてきているのが事実で、学校教育の中でも、例えば部活動を切り離していくとか、プールは民間を活用しはじめていますし、どんどん外部、第三者の方が子どもたちの教育に関わってきている状況なので、やっぱり学校外での活動をどう入れていくのか。

これも冒頭からありましたように、こどもまんなか社会ですよね。こどもまんなか社会の中で居場所づくりですね。伊藤委員もお話しされましたけれども、居場所づくりですと、こども食堂をどう捉えるかもありますけれども、学習支援なんかも居場所づくりとして民間がどんどんやってきているわけで、ここにも学習が出てきます。

ただ、この居場所づくりを所管しているのがこども未来部という、教育委員会外なので、ここには絶対いたほうがいいと思いますし、そういうところの整理をかけていったほうがいいのかなどは思いますね。

今回は最初なので、いろいろな意見をいただきながら、しっかりと作り直していくということなので、そういったところも整理していきたいなとは思っています。

○川口政策推進部長 ありがとうございます。

今日、本当にたくさんご意見をいただいて、それを含めて、今年度改訂作業というのを進めさせていただきたいと考えておりますので、この先もまたご報告、ご相談等させていただく形になろうかと思います。どうぞよろしくお願いします。

本日の事項といたしましては以上でございまして、その他がもしあればということですが、何か委員の皆様からはよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、本日の総合教育会議はこの程度とさせていただきたいと思います。

当初ございましたように、次回は11月4日ということで予定してございます。また詳しい内容につきましては、後日通知させていただきますので、皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。